

学 会 動 静

◇本学会の創設，運営等に格別のご尽力を賜りました方々が逝去されました。ここに皆様の御業績を称え，謹んで哀悼の意を表するとともに，ご冥福をお祈りいたします（編集部）。

除 村 ヤ エ さ ん を 悼 む

東 郷 正 延

1990年12月20日除村ヤエさんが91歳で逝去された。1929年に29歳でミシガン大学を卒業，同年東京外国語学校の助教授だった31歳の同郷人除村吉太郎先生と結婚，1935年夫が文部省在外研究員として訪ソするのに同行，新知識を得て37年に帰国，希望に満ちた生活に明け暮れたのも束の間，40年にはロシア文学の講義内容が偏向しているとの理由で夫が学校を逐われ，その何年か後にはこれに追い討ちをかけるように治安維持法違反で逮捕されるに及んでヤエさんの苦難の道が始まった。しかし彼女が終始一貫夫を暖かく励まし続けたことは人のよく知るところである。ヤエさんの訳業を一つずつ挙げるとすれば英文学関係では黒人作家ラングストン・ヒューズの人種差別批判の中篇「笑わぬでもなし」(白水社)，ロシア文学ではフォンヴィージンの農奴制批判の喜劇「親がかり」(ニエードロスリ)であろう。なお詩人としてのヤエさんのことは余り知られていないが78歳で出した第1詩集「除村ヤエ詩集」(1978)のほか第2詩集「私の道のうえに」(1984)，第3詩集「人間 すばらしきこのひびき」(1990)があることをここに書き誌しておきたい。

91年の生涯は決して短いとは言えないがああ温顔にももはや接することができない。今はただご冥福を祈るばかりである。

祝 祭 と 孤 独——小平さんを悼む

工 藤 正 広

東京の 小伝馬町だったか 人形町だったか (水路がむかしあった江戸の低地?) 遠い
むかし わたしはそこの路地 ビルの中のとある興信所で 夏のアルバイトをしたこと
があったけれど (…)

(商事または人事について 依頼に応じて秘密に調査報告する機関／岩波国語辞典) わ